2002年度明倫短期大学研究会抄録

第78回：2002年7月25日（木）

健康日本21における歯科の目標 ～本学附属歯科診療所におけるフッ素塗布患者との現状の比較～

石崎　愛（補手，歯科衛生士学科）

近年，2010年を達成の目安とした21世紀の国民健康づくり運動（健康日本21）が勧められている．その中の歯科分野に注目し，本学附属歯科診療所のフッ素塗布患者（3歳児）を全国データと比較した．その結果，目標値「3歳児でムシ歯ゼロを80%以上にする」では，全国データ59.5%と比べ，本診療所は68%と高く，目標値「3歳児までにフッ素塗布を受けたことのあるものを50%以上にする」では，全国データ39.6%と比べ，本診療所は45%と高いことが分かった．この結果より，本学附属歯科診療所受診者はう蝕予防に関心のある人が多いことがうかがえた．

口唇口蓋裂の矯正治療

柴田　恭典（助教授，歯科技工士学科）

口唇口蓋裂患者の治療について述べた．我が国においては450名に1人の割合で発生すると言われている．上顎の癒合不全で劣成長を伴い，反対咬合を呈することが多く，治療が困難とされてきた．近年，各医療分野（小児科・形成外科・言語治療・耳鼻科・小児歯科・歯科矯正科・口腔外科・補綴科・放射線科）を連携したチームアプローチが徐々に確立し，良好な治療結果が得られるようになってきた．歯科矯正治療について，最新の症例を交えながら概説した．また，現在の口唇口蓋裂治療の改善すべき問題点を説明した．

第79回：2002年9月12日（木）

音声英語の特徴

廣瀬　浩二（助教授，歯科衛生士学科）

音声英語(spoken English)，特に，「速い口語体(a rapid colloquial style)」では，同化・省略・弱化といった音声変化が多くみられ，個々の単語がくずれて発音されている場合が多い．従来，学校の英語教育はこれらに対応する指導を行ってこなかった．そのため多くの英語学習者は「聞くこと」と「話すこと」において，困難な事態に直面することがある．

そこで，これらの音声変化が起こる実例を，入門期と歯科診療所で出会う例，などから引用しながら紹介した．

マウスガードの作り方

佐々木　聡（助手，歯科技工士学科）

現在，スポーツ全般においてマウスガードの必要性・重要性，が言われており，また需要が増えてきている．そこで今回は，スポーツマウスガードの製作法をデモンストレーションを行い，平成14年8月10・11日に大宮ソニックシティで開催された日本歯科技工学会第24回学術大会デモンストレーションセクションの中から山八歯材工業株式会社の小山一浩さんの方法を紹介した．

第80回：2002年9月26日（木）

心のキャリブレーション

山田　隆文（助教授，歯科衛生士学科）

コミュニケーションの際には，どうしても見た目や過去の先入観などに左右される．医療やカウンセリングの現場で，患者やクライアント・学生を色眼鏡で見てしまうことは，客観的で冷静でクリアな判断力を失わせ，誤謬に陥る非常に大きな危険性がある．病や心を扱う前に，カウンセラー自身の心身の健康状態を中立な状態に整えておくことが非常に重要なエッセンスとなるが，これが思ったよりも困難なことに気がつくのである．

本学歯科技工士学科の就職状況の分析と考察

相馬　泰栄（講師，歯科技工士学科）

本学技工士学科の過去10年間の求人推移を調べた結果，平成9年度から減少の兆しが見られ，平成10年度には激減した．特に歯科診療所からの求人数が減少した背景には，歯科診療所数の増加と診療報酬の引き下げが診療所経営を圧迫し，歯科技工士を常勤させることが難しくなったことがある．そのために，診療所勤務の技工士が技工所勤務の技工士として採用され，新卒者の求人数を減少させる要因になったものと思われる．